

サポートという力

岩手県立盛岡南高校 登山部

保護者 山内 智臣

「僕、国体に出たい。」と息子が夢をつぶやいたのは千葉国体の山岳競技を観戦に行った小学校六年生の時でした。そして中学校三年生の時、岩手県山岳協会のサポートのおかげで東京国体に出場することができました。盛岡南高校入学後は登山部のスポーツクライミング班に所属し活動しています。盛岡南高校登山部は過去には国体やインターハイで輝かしい成績を収め、国際大会でも活躍する選手を輩出している全国でも屈指の強豪校です。体育館には、職員の方が作ってくれた8m程のクライミングウォールがあり、練習環境が整っています。さらに、いわて国体を迎えた今年、増設していただき、よりトレーニング環境が良くなりました。また、岩澤校長先生をはじめ顧問の先生方には、生徒主体の自由な練習をさせていただきました。そして、結果

が出せず悩み苦しんでいる時も、温かい目で見守り、信じ続けてくださいました。感謝の一言に尽きます。わかやま国体では入賞を果たし、今年のいわて国体では、念願の優勝と準優勝という成績を収めることができ、小学生の時の夢は実を結びました。この結果は、盛岡南高校の登山部員として活動をしたことで手厚いサポートを受けられ競技だけに集中出来る環境があったからです。さらに、三年間の部活動を通して、競技力だけではなく人間力も培う事が出来ました。ご指導下さった先生方をはじめ、サポートや応援をして下さったの方々にも心より感謝申し上げます。

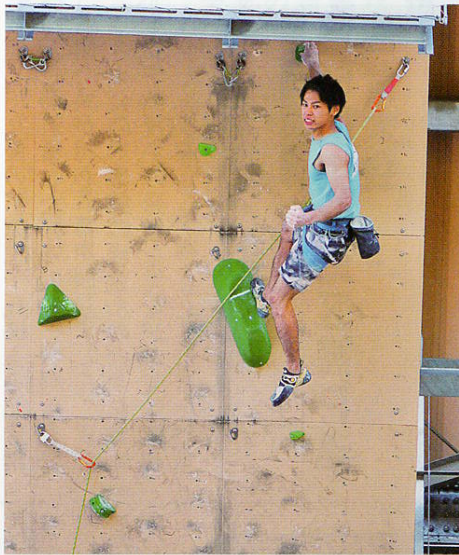
岩手国体を終えて

岩手県立盛岡南高校 剣道部

父母会 高野橋 美奈子

当時小学4年生だった娘は、剣道とバトントワリングで全国を目指しておりましたが「剣道に集中する」の一言、そして卒業文集に「岩手国体の選手になりたい」と書いたあの日から、未来への挑戦が始まりました。

全国の壁は厚く、全中もインターハイも結果が残せませんでした。泣いている暇などありません。岩手国体で必ず優勝する、を目標に頑張ってきました。顧問の赤寄先生からも「俺は子供達と一緒に日本一になる」と力強いお言葉を頂き、私達父母会も剣道に集中出来る環境作りのお手



▲岩手国体リード決勝



▲盛岡南高校剣道部

依いをさせて頂きました。親元を離れての合宿所生活は、ゴミ出しから買い物まで全て自分達だけの生活です。時々ご飯作りに出かけ、ケチャップでオムライスに書いた「日本一になる!!」は、子供達に大好評でした。

剣道を通して学んだ事は沢山あります。家族という時間よりも長く時を過ごした子供達六人にとってこの三年間は、生涯忘れられない宝物になる事でしょう。高校生活最後となる岩手国体、私達父母会も心はひとつです。会場全体が岩手の応援をしてくださる、拍手の凄さに驚き、感謝の気持ちでいっぱいでした。ご指導頂きました先生方をはじめ、関係者の皆様には大変お世話になりました。子供達のさらなる飛躍を期待しております。

第66回全国高P連大会 千葉大会

「再発見！愛」をテーマに、8月25日（木）・26日（金）に開催され、岩手県からは196名が参加しました。全国からの参加者が10,325名となる盛大な大会となりました。「幕張イベントホール」をメイン会場に全体会が2会場、分科会が7会場で行われました。1日目の開会式では来賓の松野博一文科科学大臣、森田健作千葉県知事、熊谷俊人千葉市長の祝辞があり、続く表彰式では昨年の全国高P連岩手大会の実行委員長を務めた渡辺正和会長と主管した岩手県高P連に対して特別感謝状が贈られました。続いて「高校生の自立を支援するPTA活動の在り方」をテーマに「今こそ信じよう高校生を」と題して千葉敬愛短期大学学長 明石要二氏による基調講演をいただきました。午後の分科会では発表や活発な研究協議が行われました。2日目は「私の選んだ女優の道」

第65回東北地区高P連 仙台大会

と題して女優の市原悦子氏による記念講演が行われました。その後、分科会報告と閉会式が行われ幕を閉じました。今大会の千葉県の皆さんの大会を支える姿や高校生の発表を見ながら、昨年の岩手大会を振り返った方も多かったのではないのでしょうか。

「復興から創生へ 集え！伊達の地に子どもたちの夢を応援するPTA活動」をテーマに7月8日（金）仙台サンプラザで開催され、東北6県から1,432名、岩手県からは228名が参加しました。開会行事の後「地方創生の主役となる子どもを守り育てるために」東日本大震災の学校災害を教訓としてと題して宮城教育大教授 田端健人氏の基調講演がありました。午後の研究協議では各県からの発表があり、岩手県からは大野高校の長川敏彦会長が「里山整備とPTA活動」子どもたちの夢を育む家庭・学校・地域連携」と題して発表を行いました。

受賞おめでとうございます

- ☆平成28年度全国高P連会長表彰(団体)
平舘高校PTA 西和賀高校PTA
- ☆第65回全国大会開催地に対する特別感謝状
岩手県高等学校PTA連合会
- ☆全国大会開催地実行委員長に対する特別感謝状
岩手大会実行委員長 渡辺正和
- ☆第65回東北地区高P連仙台大会
表彰状 平舘高校 佐々木 清恵
黒沢尻工業高校 高橋由紀
西和賀高校 高橋 宏勉
種市高校 城内 勉
感謝状 金ヶ崎高校 高橋 清治
千厩高校 千葉 弘之
山田高校 山崎由加利
福岡工業高校 細田美代子
- ☆第20回東北地区PTA広報紙コンクール
優秀賞 黒沢尻北高校
優良賞 一関第二高校・大船渡東高校
- ☆平成28年度岩手県教育表彰
久慈高校PTA



▲全国高P連大会千葉大会

今回は大会前日に視察研修が企画され、東日本大震災から5年を経過した被災地区や廃校となった小学校をバスの中から視察し、被災したビル工場では今までの取り組みや地域・学校への支援活動についての説明を聞くことができました。



▲29年度は盛岡へおでっくなんせ

地域の希望

西和賀高等学校PTA会長
高橋 輝彦



西和賀高校は多くの先輩方の、積極的なPTA活動を継続して来られたことが評価を頂けました。これまで携わって来られた皆様に感謝を申し上げます。

当校は現在全生徒が115名と、毎年入学者が5割前後と低迷しており、存続が危ぶまれております。西和賀町は高校の危機は町の危機と捉え、高校魅力化基金と称し500万円を準備し、学校・

請求なければ支払いなし

- (一社)全国高P連賠償責任補償制度
PTA単位で加入する制度で発足後15年目となりました。
(加入状況)
・全国 2,186校/1,303,110人 ・岩手県 68校/28,115人
(事故の際は)
全国高P連賠償責任補償制度事故受付電話 0120-119-110
- 岩手県高P連高校生総合保障制度
(加入状況) Aプラン(病気補償あり) 61校 2,389人
Bプラン(病気補償なし) 60校 598人
Cプラン(自転車重点型) 62校 1,333人
(引き受け保険会社) AIU損害保険株式会社盛岡支店
TEL 019-653-1411

全国大会 団体表彰

PTA・同窓会等と高校魅力化委員会を立ち上げ、取り組んでいるところであり、なかなか特効薬は見つかるものではありません。再び地域の希望の光として輝くためには、どんなにインパクトのある取り組みを始めたとしても3年は必要であろうと考えます。ここはやはり県教育委員会の理解が必要となつて参ります。県の人口減少に歯止めをかける意味でも、地方の高校の弱体化を回すのではなく、むしろ県外大都市部からの生徒確保等の施策が必要と考えます。今後も皆様方のご支援を承り、同環境地域の方々と連携し取り組んで行ければと考えます。

「大野」に見守られ、自己肯定感育む
里山整備の豊かな恩恵

東北大会
発表

大野高等学校PTA会長

長川 敏彦



平成28年7月7日（木）、8日（金）の2日間、第65回東北地区高等学校PTA連合会仙台大会が、宮城県仙台市を会場に開催されました。

今回当校は岩手県代表としてPTA活動を発表する機会を与えられ、主題「里山整備とPTA活動」について8分間という短い時間のなかで発表してまいりました。

した。

東北6県の関係者が集う中、大野高校のすばらしさを最大限に発表することが出来たと思います。これも校長先生をはじめ資料作成に携わっていただきました先生方のお力があつての結果です。改めて感謝とお礼を申し上げます。

各県の研究発表後、活発な協議がなされましたが幸か不幸か当校には質問等がなく無事終了する事ができました。最後に次期開催県の岩手県高P連会長・盛岡大会実行委員長の挨拶で閉会となり緊張の一日が終了致しました。

学校の活性化を地域と共に

東北大会
個人表彰

平館高等学校前PTA会長

佐々木 清



PTA会長として四年間（役員を務めさせていただきました）を過ごしました。その間、少子化に伴う生徒数の減少や会長に就任してから学校再編問題があり学校・地域・同窓会・PTAと共に考えて参りました。

魅力ある学校にするにはどうしたらいいか、活性化委員会を立ち上げ、地域に生徒の活動を発信する事としました。

PTAとしては、学校行事に参加し、体育祭では生徒全員分のとん汁提供、文化祭においては野菜等を含めたバザーや

餅振る舞い等、来場者千人を目標にして活動してきました。

三年目で達成することが出来たのは、会員一丸となつての取り組みと感謝しています。

来場者が増えることにより、生徒達の展示や活動が活発になってまいりました。平成三十年には七十周年を迎える事に併せて制服も新しくなる予定です。

今後とも地域に愛され、生徒自身も誇りに思えるような学校を目指して行きたいと考えています。

このたび、東北地区仙台大会において表彰状を頂きましたのも先生方、会員各のご協力の賜物と感謝申し上げます。

新しい視点と問題意識で臨んだPTA
貴重な体験と出会いに感謝

東北大会
感謝状

金ヶ崎高等学校前PTA会長

高橋 清治



平成26年度、27年度の2年間、金ヶ崎高校のPTA会長を務めたことから、次々と様々な

役割が回つてきて、貴重な経験と色々な人との出会いがあり、大変楽しい時間を過ごすことができました。

1年目は、内館前会長のもと高P連副会長を務め、東北高P連の進路対策委員を務めるとともに、全国高P連大会福井大会において発表者として登壇しました。そのことについては、ポローニア33号の3

ページと7ページをご覧ください。今でも進路対策委員のPTA会長さん達とはLINEをする仲です。

また、知っている人は知っていますが、私は毎年県高P連の総会で発言し、様々な指摘をしたところですが、東北高P連の総会においても指摘をし、東北でも名前を覚えていただきました。

2年目は、渡辺会長のもと全国高P連大会岩手大会で副実行委員長を務めました。東北地区仙台大会において感謝状をいただいたことは、2年間の私の活動を高く評価していただいたものとうれしく思います。最後になりますが、PTA会長、県高P連事務局、この間出会った全ての皆様へ感謝申し上げます次第です。

PTA活動を思索し改善

岩手県
教育表彰

久慈高等学校前PTA会長

下館 佳光



このたび岩手県教育表彰を受賞させて頂き、久慈高校PTA一同喜びを誇らしく感じています。この受賞は現PTAの方々のご協力のもとより、歴代役員や先輩会員の皆様のご尽力のお陰でもあり深く感謝致します。

久慈高校PTAでは役員・事務局らで各活動についてよく考えながら活動に取り組んでおります。PTA総会では保護

者の関心が高い大学進学についての講演会や進路説明会、各部の活動披露等々を行い、県内上位の高い出席率を得ています。これは事務局中心に役員とで検討しました。また、文化祭でのPTAバザーでは担当役員らが販売方法を熟思し前向きに取り組んだ結果、数年前の倍以上の高売り上げとなりました。これらを災害基金等に寄付するなど社会貢献にも向けた取り組みです。これからも子どもたちの学校生活充実、且つ保護者の参加拡充のため活動を様々な思索し改善していきます。

今回の栄えある表彰を糧に更に活気あるPTA活動を推進してまいります。このたびはありがとうございました。



▲開式のことばを述べる花北青雲高校 吉田 豊 会長



▲講演に耳を傾ける皆さん

主催者を代表しあいさつに立った渡辺会長は、8月31日に発生した台風10号の被災高校生への支援として義援金1629,790円が寄せられたこと（10月14日現在）を報告しました。

このあと研究協議に移り、盛岡地区と胆江・県南地区から二人のPTA会長が事例発表しました。

盛岡地区からは、盛岡工業高等学校・山崎元PTA会長が「親子ともに充実した3年間であるためにPTA活動を通して話題の共有を」と題して今年一年間の活動を振り返りました。

第26回会長研修会

PTA活動を通して話題を共有 智田先生に学ぶ

「人生からの問いかけにどう応えるか？」

平成28年度岩手県高等学校PTA連合会（渡辺正和会長）第26回会長研修会が、10月14日（金）と15日（土）の二日間、花巻のホテル千秋閣で開かれました。

研修会には、各高等学校のPTA会長、副会長、理事ら55人が出席し、事例発表と講演で活動の方向性を探りました。

主催者として出席した岩手県高等学校長協会の佐々木杜陵高等学校長は「餅つき

PTAの主な活動は、7月の環境整備活動、8月に同町主催の夏まつり「日本の餅つき大会」への参加などがあります。餅つき大会にはPTAが製作したピンクのTシャツを着て参加、今年、グランプリを受賞しました。

来賓として出席した岩手県高等学校長協会の佐々木杜陵高等学校長は「餅つき

11月5日に実施したPTA研修旅行「北海道新幹線で行く函館研修」には、申込みが殺到し、抽選で10人多い55人となりました。

胆江・県南地区からは、花泉高等学校の佐藤忠義PTA会長が「学校活性化とPTAの規模拡大の強みを活かす取り組み」と題して発表しました。

花泉高等学校は昭和23年に開校。来年、創立70周年を迎えます。学級数は普通科1クラスで全校生徒が105人。佐藤PTA会長は生徒像を「素直で勤勉」と評しました。

盛岡工業高校は明治31年に開校し、平成30年に創立120周年を迎えます。

発表の中で山崎PTA会長は第一回構内視察を体育大会（6月23日、24日）に合わせて実施したところ、保護者から「ブレる姿がまぶしく、育児の最終章を実感しながら応援しました」などと好評を得ました。



▲渡辺正和高P連会長



▲未来の風せいわ病院 智田文徳 理事長

智田さんは「10年先も大丈夫だろうという安心感の中で生きているが、人生は離別、喪失体験の積み重ね。そこから逃れることはできない」と語り、「どんな不幸の中にも何らかの問いかけがある。運命の手にもどるようになれるかは私たち次第」と、柔軟に対応できる心の強さを持つ必要性を訴えました。智田さんは「大変な状況をいかに乗り越えさせるか。乗り越える力を与えるかが私のテーマ」と、精神科医としての姿勢を語りました。

警察庁の統計によると、18歳未満の27年度の自殺数は小学生が6人、中学生が102人、高校生が241人。高校生は平成15年以降、200を超えています。全体では、男性は女性より2倍自殺者が多くなっています。

続いて講演会に移り、未来の風せいわ病院・智田文徳理事長が「いのちの危機を乗り越える」高校生を対象とした自殺予防教育」と題して講演しました。重く辛いテーマを古今東西の哲学者や心理学者の考えを紹介しながら、事例を交えながら話し、自殺願望を乗り越えていく強さを身に付けさせる必要性を訴えました。

◇ ◇

続いて講演会に移り、未来の風せいわ病院・智田文徳理事長が「いのちの危機を乗り越える」高校生を対象とした自殺予防教育」と題して講演しました。重く辛いテーマを古今東西の哲学者や心理学者の考えを紹介しながら、事例を交えながら話し、自殺願望を乗り越えていく強さを身に付けさせる必要性を訴えました。

のパフォーマンスを今度見てみたい。盛工PTAは参加者が多く、会員の情熱を感じました」などと感想を話しました。

つなげよう みんなの心 子どもたちの健やかな成長は皆の願い 第16回 母親会員交流会

岩手県高等学校PTA連合会の第16回母親会員交流会が10月26日、サンセール盛岡で開かれました。秋田県高P連母親委員長 山信田勢津子さんと、岩手県教育委員会生涯学習文化課の久慈孝生涯学習担当課長、本年度母親委員会顧問の大浦奈保子さん、照井陽子さんにお越しいただきました。

「つなげようみんなの心」をスローガンに掲げ、「未来を担う子どもたちの幸せを願い今できることをテーマに、48校から母親会員142人が参加しました。



▲全体協議でグループの意見を発表しあう



▲花巻北高の平賀淳子さん(右)、金石高校の岡道博美さん、芳賀美砂子さん

夢を持ち人生に
あしあと残そう
躓いても乗り越えら
れるヒントがある

つなぎ温泉四季亭の専務取締役 林晶子さんより「女将業28年の経験からのおもてなし以前の当たり前の事・考える力」をテーマに講演をいただきました。

林さんは幼少の頃、東京オリンピックを見つけた外国への夢をいだき続け、国内で学んだ後、アメリカに渡り、2年間シアトルで過ごしたことがあります。見知らぬ外国に行くことを後押ししてくれたのは祖母で「後悔したら可哀相。」と周囲を説得してくれたとのこと。ホーム

ステイ先では「良い思い出をたくさん作ってほしい」と歓迎され、この時の体験も林さんのおもてなしの原点になったといえます。

1988年に盛岡に戻り、四季亭を開業。客をもてなすための様々なチャレンジが始まり、徐々に実を結んでいきました。

「若者たちには仕事の責任や常識、考えることを日々繰り返し指導している。おもてなしの基礎となるのは、家庭の躰ももちろんであり、人との対話が非常に重要です。仮に躓いてもヒントを与えて乗り越えられるよ

う導きたい」と、述べられました。

午後からは全体協議に移りました。まず、花巻北高等学校からは平賀淳子母親委員長が発表しました。同校は昭和6年に開校、今年、85年を迎えました。桜雲祭では大槌町から海産物を仕入れ、収益を大槌高校の復興支援に当てていることなどが報告されました。

釜石高等学校からは岡道博美PTA会長と芳賀美砂子母親委員長が発表しました。同校は大正3年に釜石町立釜石女子職業補習学校として開校、平成20年に釜石南高等学校と釜石北高等学校が統合し、現在の校名に変わりました。昨年度、21世紀枠で甲子園の出場を決めた野球部の応援の様子を語り「思い出すと笑みがこみあげる甲子園だった」と振り返りました。

このあと21のグループに分かれて活発に意見や感想を出し合い、グループごとに発表しました。



▲あいさつする石川裕子高P連 母親委員長

第12回

がんばる岩手

住田高等学校 PTA 会長 水野 司



住田町唯一の高等学校として、全校生徒一〇八名と小規模校ながらも、進路決定率

一〇〇％・活発な部活動(アーチェリー部新人戦男子団体初優勝)や様々なボランティア活動・オーストラリア海外派遣研修の実施など、多彩な教育活動を行っており、保護者と教職員が一体となって子ども達の育成に日々努めております。町内のみならず、大船渡・陸前高田・釜石からも多くの生徒が通学しており、被災家庭も少なからずあるのですが、県下でも珍しい町の協力による通学費補助・全校生徒への給食の無償提供事業に支えられつつ、子ども達は毎日元気に学校生活を送っております。

PTA活動としては、月並みですが、入会式・総会(記念講演会)・文化祭(住高祭)での模擬店の開設・朝の挨拶運動等を行っております。特に文化祭の模擬店は、例年三年生の模擬店と協力して豚汁・おにぎり・フランクフルトや青果の販売を行い、たいへん好評をいただいております。また今年度は、県高P連の呼びかけに応ずる形で台風一〇号復興応援バザーを行い、多くのお客様の善意を義援金として寄付することが出来ました。少ない会員数の中で、精一杯の活動しております。

今後とも地域と社会の宝である、子ども達第一の活動を行って参ります。よろしくお願致します。



▲登校時一声運動・マナーアップ運動



▲文化祭(住高祭)PTA模擬店

第46回 事務局長研修会

平成28年11月11日(金)
会場/サンセール盛岡(盛岡市)

「より魅力溢れる学校に」 うけとめたいPTA事務局長さんの発信

平成28年度第46回事務局長研修会は、61校からの参加者で行われ、2校の研究協議発表、各校提出協議議題について活発な意見交換等が行われた。相互理解が深まるPTA活動をめざして



盛岡工業高校 椎子有子先生
全日制と定時制の協力のもとにPTA活動が行われている。役員になった保護者自身が楽しみながら活動を行うことが伝統的に受け継がれている。

役員はそれぞれ5つの専門委員会に分かれて活動を行うが、会長と学年委員長と各専門委員長で構成される総務委員会が、1年間のPTA各種事業の企画・運営を行っている。本校では今年度初めて、日曜日にPTA総会を開催し、3年生向けの進路説明会や学級懇談会を共催した。進路説明会ではこれまで就職説明会として実施していたものを、生徒の進路の多様化に合わせて内容・名称を変更して実施した。また1・2年生にも進路学習会という企画をもうけるなどの工夫を実践した。本校PTAは「保護者の要望」と「工業高校らしさ」を念頭にしつつ多くの保護者が「学校に足を運ぶ機会」となるようなPTA活動をめざしている。PTA活動が保護者の負担となるだけのものではなく、学校全体が活性化するためのきっかけになるように取り組んでいきたい。

学校活性化とPTA

小規模校PTAの強みを活かす取り組み



花泉高校 多門真咲先生
岩手県南に位置することから、在校生の通学圏は、地元花泉や一関地区以外に宮城県北までの広範囲である。卒業生は44%が進学者が増加している状況である。

小規模校のため、「予算は限られているがPTA会員のマンパワーは無敵である」という認識のもと積極的なPTA活動を行っている。保護者・職員・生徒だけではなく、同窓会も参加して環境整備作業(校地内の手入れ・プランターの世話)の実施。また保護者と本校職員が「日本一の餅つき大会」に出場し、グラウンドを獲得するなどPTAの結束力の強さをアピールする機会にもなった。小規模校故に意思決定が早く、フットワークも軽く、他人任せにする風潮が出ていく一方で、地元出身者以外の保護者の行事参加を促す工夫が必要である。花高PTAとして様々な活動を通して、魅力溢れる学校になるために一役買、その魅力を外部



に発信し続けていきたい。
〈各校提出協議議題及び連絡事項〉
①県高P連合会高校生総合保障制度について
個人賠償責任補償は家族全員が対象であること、生徒のみだけではない。補償適用外の事例もたくさんあるためわかりにくい。そのため入学式後のPTA向けのガイダンスの時間等に来校し、直接保護者への説明の時間を取ってほしいという要望がPTA側から出された。これに対し、業者より事前に支店へ連絡を頂き、日程調整が合えば、直接担当職員から説明させていただきたいという前向きな回答があった。また業者より、高校生国際交流プログラムを30年近く実施している。毎年募集要項を配付しているので、ふるって申込んで欲しいとのことである。
②各校で雇用している私費会計職員又は事務補助職員の勤務体系や処遇について

進路指導会計の担当の他、振興費会計など私費会計の実務を担当する会計担当職員を教職員とは別に配置している学校が多い。最低時間給を配慮しながらの賃金支払いをしている。会計監査の立ち会いについては、平日の勤務時間内に実施できるように設定している学校が多い。

③東北大会や全国大会への生徒派遣(補助)等について
団体強化の関係もあり非常に部活動の活躍が目立った。そのため、会費の値上げ、同窓会等の応援をいただいで対応している。
④PTAの各種大会の情報交換会(懇親会)の支出について
会費が高額なので、次年度の盛岡大会では懇親会の持ち方や設定金額について検討している。
(記録 花巻北高 牛崎芳恵事務局長)

東北地区高P連盛岡大会 平成29年7月開催

第66回東北地区高等学校PTA連合会盛岡大会が来年7月に盛岡市民文化ホール等で開催されます。6日(木)には準備・運営会議・情報交換会、7日(金)の午前には開会行事・6県代表による研究発表と研究協議、午後には記念講演・閉会行事が行われます。先日行われた第3回実行委員会において、大会テーマは「届け ドリームマップ」(世界人の架け橋を郷土から)となり、記念講演は毛越寺貫主の藤里明久氏を講師にお願いすることになりました。高校生の発表としては盛岡第一高校の研究発表、盛岡第一高校の詩の朗読、盛岡第二高校の吹奏楽演奏、花巻農業高校の鹿踊

り、盛岡第四高校の合唱を予定しています。前日の情報交換会ではアトラクションとして、さんさ踊りと岩手町出身でテノール歌手の柴田泰孝さんの歌を予定しています。

この大会では、より多くの岩手の高校生の活躍について紹介する機会も考えており、高校生の生産物や製作物の販売・展示、各種印刷物のデザイン作成等もお願ひしたいと思っています。

PTA会員の皆さんにも是非多くの参加と大会運営への取り組みをお願ひします。各学校のPTAにはご負担をおかけしますがご協力よろしくお願ひいたします。

岩手県高P連委員会活動報告



健全育成委員長
佐藤 淳文
(大船渡東高等学校)

あいさつ運動への参加に感謝

健全育成委員会の運動の中心であり、長年実施していただいております「登校時一声運動・マナーアップ運動」への取り組みについて、各校PTA及びPTA会員の皆様方に感謝申し上げます。

9月に東北高P連の健全育成委員会が開催されました。昨年度発行のリーフレットにつきましては、平成25年度にまとめられた「全国高校生・生活意識調査」より、現在の高校生は、自己肯定感が低いという結果が表れており、生徒

たちの学校生活や地域活動の中から、人間関係づくりや自尊心を高める話題を紹介する内容としたことでした。今年度につきましては、「自立した社会人の育成を目指して」という特集のリーフレットを作成することとしました。

健全育成委員会の役割は、非行防止（薬物、いじめ、SNS）、交通安全指導、学校行事や地域行事への参加協力など、多くの役割があり、責任の重さを感じております。同時に、こどもたちが様々な人や社会との関わりを広げていく中で、PTAとして寄り添っていくことができる健全育成委員会の活動の意義は大きなものであると感じており、あいさつ運動を中心に皆様方と共に活動を進めてまいりたいと思っております。今後とも御協力をよろしくお願いいたします。



進路対策委員長
柴田 正三
(一戸高等学校)

進路実現を家庭と学校との連携で

今年度の進路対策委員会のメンバーは、次の通りです。副委員長が、伊保内高校の荒田繁樹さん。委員が、盛岡第三高校の白澤勉さん、花北青雲高校の熊谷利昭さん、宮古水産高校の梶山孝雄さんです。委員長が、私一戸高校の柴田正三です。

第一回進路対策委員会は、6月24日（金）サンセール盛岡で開催され、今年度の活動について話し合われました。その結果、「会社が求める人材について、4ブロックから会社を選定してアン

ケート調査することにしました。昨年度は、高校生の「離職の状況」をテーマに調査したようでしたが、3ヶ月でおよそ半分が就職先を辞めているということです。アンケートは、本校の事務局長が岩手県高P連事務局の助言を受けながら作成しました。

事前調査として、一戸高校の一年次生の保護者へ、進路について「心配なこと」や「悩んでいること」または「必要な情報」についてアンケート調査をしました。その現状をまとめて、対象の会社に情報提供をし、アンケート調査に協力して頂きました。

内容は、大きく二つです。「会社が求める人材について」、「新規学卒者の3年以内の離職の問題について」です。ここから出てきた内容について、ご家庭に就職支援の一環として情報提供したいと考えています。



調査広報委員長
柳澤 美智子
(杜陵高校)

大切な言葉を伝えて

今年度の活動は、まず、6月15日（水）仙台での東北地区高P連総会、第1回各委員会に始まりました。各県の調査広報委員会代表の方々と本年度の広報紙に関する話し合いをしました。

それを受けて、6月24日（金）にサンセール盛岡において、県高P連第1回合同委員会・各委員会が開かれ、今年度の取り組みについて活発な意見交換を行いました。



母親委員長
石川 裕子
(盛岡工業高校)

子どもたちの未来を願う

今年も48校142名の参加の下「つなげようみんなの心」をスローガンに「未来を担う子どもたちの幸せを願い今できること」をテーマとし第16回母親会交流会が開催されました。

講師に女将業28年のつなぎ温泉「四季亭」の林晶子様をお招きし、おもてなし以前の当たり前の事、考える力を演題にお話を頂きました。接客を通して新入社員を一人前に育てる中で、「夢」を持ち「足跡」を残せる人生を歩

さらに9月2日（金）の秋田市で開催された第2回東北地区調査広報委員会では、秋田魁新報社編集局制作センター長藤原謙氏の講演があり、広報紙作りのポイントについて①見た目の重要性②レイアウトの作り方③読者を考えた広報紙であること④わかりやすい言葉による表現、等の詳しい説明を受け非常に勉強になりました。一つひとつ大切な言葉で綴っていきたいと思えました。

今年度の岩手県高P連PTA広報紙コンクールも多くの学校のご応募をいただいております。皆様におかれましては、PTA広報紙を手にとって読んでいただけることを心から願っております。

んでほしいと願う女将の思いは、子育て中の私たちにも学ぶべきことがとても多くありました。

全体協議では花巻北高校と釜石高校からの事例発表があり、活発な質問や感想が挙げられ会員の皆さんの意識の高さを感じました。

秋田県母親委員長の山信田勢津子様からは、躍動感ある岩手の取組は素晴らしいと、講評をいただきました。

私も二人の息子の高校生活と共に母親委員を5年間経験し、交流会や研修会、学校行事に参加する度に元気やヒントをもらい楽しく活動しております。日頃の家庭の中ではもちろん、学校や地域での活動を通じた繋がりは、未来を担う子どもたちにとっても大切です。

これからも母親委員会の活動を、各校の有意義な交流の場としていただければ幸いに思います。

おらほのPTA

PTAとして願うこと

岩手大学教育学部附属
特別支援学校 PTA会長

佐々木 美希



岩手大学教育学部附属特別支援学校は、小学部、中学部、高等部の3つの学部が設置されている学校です。子ども達は、学校目標「現在及び将来の社会生活において、主体的に、そして豊かに生きる人」を目指し、日々学び様々な活動に取り組んでいます。PTA活動においては、会長・副会長・クラス役員その他に4つの専門部（事業・厚生・文化・進路）があり、それぞれ部にPTA会員が所属し、各部毎に会員に参加してもらえよう企画実施しております。

事業部は、日頃お世話になっている地域の活動センターの除草作業等を行っています。厚生部は、健康ス



▲スポーツ交流会

ポーツ教室、スキー教室を行い、普段後回しにしがちな健康な体の意識作りを行っています。文化部は、本校で開催する文化祭「あにわ祭」に展示する作品を作成する活動を行っています。進路部は、施設見学や卒業生の保護者をお呼びし、将来の子どもの姿を具体的に考える活動を行っています。

各部が企画したこのような活動に参加することで、学部を超えた会員相互の関わりを深めています。

私たちPTAは、私たちが楽しむ活動・やりがいのある活動をすることで、豊かに生きる子どもたちの姿や笑顔につながることを願っています。

子どもたちの応援団として

岩手県立水沢商業高等学校
PTA会長

遠藤 正樹



本校は今年度創立87年目を迎える専門高校で、商業科、会計ビジネス科、情報システム科があります。校訓「明・浄・直」のもと、学習や部活動、ボランティア活動など様々な活動に取り組んでいます。

PTAの組織として健全育成、進路対策、調査広報、母親の各委員会があります。健全育成委員会は「登校時あいさつ運動」を生徒昇降口前で行い生徒と明るく挨拶を交わし合っています。

進路対策委員会はPTA研修旅行を計画、今年は青森方面にかけ、立佞武多の館見学、スコップ三味線体験、鶴



▲平成28年PTA交流会～スコップ三味線会館（青森）にて

の舞橋散策を通して会員相互の交流を深めて来ました。調査広報委員会は年2回会報を発行、学校生活の様子やPTA活動の情報提供に努めています。

母親委員会は各種研修会への参加や文化祭でのPTAによる餅つき・餅振る舞いを中心となつて行っています。

私たちPTAも子どもたちの応援団として学校行事やPTA活動を通して最大限のサポートを惜しまず、楽しみつつ充実した活動を継続しながら活気あるPTA活動を続けていきたいと考えています。

編集後記

ポローニア発行にあたりご協力いただきました。皆様へ感謝申し上げます。

さて、依然としていじめや不登校など様々な話を耳にする昨今です。大変な時代だと思えます。うれしい時だけでなく、悲しんでいる人、苦しんでいる人の思いをどう受けとめていいのか悩みます。

一人では前にも後にも行けない自分ですが、それでもやさしさをもち、人に接していきたい。そして素直に感謝する心で、一歩一歩、ゆつくりでいいから前に進んで行けたらいいと思っております。「泣いて暮らすも一生、笑って暮らすも一生、だったら笑って暮らしましょう」この言葉がいつも私の心の中にあります。

最後になりましたが、今後も皆様と一緒にPTAの活性化に努めてまいります。

（調査広報委員長・柳澤美智子）



〈編集委員〉調査広報委員会

- 委員長 柳澤美智子（杜陵高校）
- 副委員長 高橋 輝幸（盛岡農業高校）
- 委員 高橋 輝彦（西和賀高校）
- 及川信太郎（水沢農業高校）
- 菅原 規正（福岡高校）

◇事務局

- 小松代 元（杜陵高校）
- 高橋 秀幸（県高P連）
- 木村 智子（県高P連）